

## SQL 文の実行時に、動的に統計情報をサンプリングして、その取得した統計情報取得の結果で実行計画を改めて作成し、SQL 文を実行する方法

ダイナミックサンプリングを行う場合、Select 文のヒント句で、DYNAMIC\_SAMPLING を指定する

### 【注意】

ダイナミックサンプリングは、ハードパース実行時の時にしか実行されない  
〔ダイナミックサンプリングしても実行計画の再構築を行わないのであれば、サンプリングの意味が無いからである〕

SELECT /\*+ DYNAMIC\_SAMPLING(n)\*/ 列名, . . . from テーブル名 ;

n の値	サンプリングするブロック数	備考
2	64 ブロックをサンプリング	通常は、n = 2 でよい
5	128 ブロックをサンプリング	1GB 以上のテーブルの時に指定
6	256 ブロックをサンプリング	1GB 以上のテーブルの時に指定

### 【ダイナミックサンプリングを行う場合の手順】

1) データの変動が大きいテーブルの統計情報を削除する

```
sql> EXECUTE DBMS_STATS.DELETE_TABLE_STATS('<スキーマ名>',  
      '<テーブル名>');
```

2) テーブルに対して統計情報を固定する

```
sql> EXECUTE DBMS_STATS.LOCK_TABLE_STATS('<スキーマ名>',  
      '<テーブル名>');
```

3) Select 文のヒント句に、DYNAMIC\_SAMPLING を指定する

この時に、毎回ハードパースが行われるように、日付をコメント追加しておく

```
sql> select /*+ DYNAMIC_SAMPLING(n)*/ /* YMMDDHH24MISS */  
      * from <テーブル名> where ~~~ ;
```

使用例)

```
EXECUTE DBMS_STATS.DELETE_TABLE_STATS('KOZUE', 'EMP');
```

```
EXECUTE DBMS_STATS.LOCK_TABLE_STATS('KOZUE', 'EMP');
```

```
select /*+ DYNAMIC_SAMPLING( 6 ) */ /* YMMDDHH24MISS */ *  
      from kozue.emp where empno > 3;
```